

The 15th

Asian-Pacific City Summit

19-21 October 2026 Fukuoka, Japan

PROGRAM

日本語

**Collaborating & Co-Creating:
Initiatives for Sustainable Cities**



主催者あいさつ



福岡市長
高島 宗一郎

第15回アジア太平洋都市サミットに国内外からご参加いただく皆様を、ここ福岡市にお迎えできますことを大変うれしく思います。

また、今回の都市サミット開催にあたって、多大なるご支援とご尽力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

アジア太平洋都市サミットは、1994年に福岡市の提唱により始まった、都市による国際会議です。以来、それぞれの都市が抱える様々な課題やその解決に向けた取組みについて広く知見や経験を共有するとともに、会議での対話をきっかけに都市間ネットワークを拡大できる交流の場として発展してまいりました。30年以上にわたり培われてきた都市間の信頼と協力関係は、持続可能な都市づくりを進める上で大きな力となっています。

今回の都市サミットは、「共働・共創～住み続けられるまちづくり」をテーマに開催します。急速に進む都市化や少子高齢化、気候変動や自然災害の激甚化など、都市を取り巻く環境は大きく変化し続けており、都市が抱える課題も複雑化・多様化しています。こうした課題に対応し、将来にわたって誰もが安心して暮らし続けられる都市を実現するためには、都市が多様な主体と密に連携した上で、それぞれの経験や強みを生かしながら共働し、新たな価値を共に創り出していくことが重要です。

福岡市は、古くからアジアとの交流の窓口として発展し、アジアに開かれたまちづくりを進めてきました。こうした交流の歴史を受け継ぎ、今回の都市サミットによって都市と都市の交流が一層深まること、並びに、会議の中で交わされる対話が新たな気づきにつながり、その気づきが、都市が抱える課題解決と、持続可能なまちづくりをさらに前進させる契機となることを期待しております。

併せて、ご滞在中は福岡市ならではの豊かな食や文化をお楽しみいただければ幸いです。

最後に、各都市のさらなる発展並びにご参加の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

A handwritten signature in black ink, appearing to be '高島 宗一郎' (Takashima Munehiko), written in a fluid, cursive style.

The 15th Asian-Pacific City Summit

Collaborating & Co-Creating:
Initiatives for Sustainable Cities

目次

主催者あいさつ	2
概 要	4
プログラム	4
フロアマップ	6
展示会場マップ	7
協賛企業一覧	9
基調講演	10
国際機関セッション	11
分科会導入セッション	12
分科会	13
参加都市代表者一覧	14
参加都市紹介	16

※このプログラムは、2026年10月8日時点のものであり、
当日変更になることがあります。

概要

会議名：第15回アジア太平洋都市サミット

テーマ：共働・共創～住み続けられるまちづくり

開催期間：2026年10月19日(月)～21日(水)

会場：ヒルトン福岡シーホーク

主催：福岡市、国際連合人間居住計画(ハビタット)福岡本部(アジア太平洋担当)

共催：国際連合地域開発センター(UNCRD)

協力：世界銀行グループ東京開発ラーニングセンター

企画・運営：第15回アジア太平洋都市サミット実行委員会

後援：総務省、外務省、国土交通省、環境省、国際連合開発計画(UNDP)、国際連合広報センター(UNIC)、
一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)、独立行政法人国際協力機構(JICA)

参加都市：11か国28都市

プログラム

1日目：10月19日(月)

14:00～15:00 開会式

- 主催者挨拶：福岡市長 高島 宗一郎
- 参加都市代表挨拶：釜山広域市副市長 オ・ソクン
- 来賓挨拶：国土交通省国土政策局長 井崎 信也
- 参加都市紹介
- 地元歓迎挨拶：福岡市議会議長 平畑 雅博

15:00～15:10 基調講演

- 国連事務次長及び国連ハビタット事務局長 アナクラウディア・ロスバッハ

15:25～16:30 国連ハビタットセッション

「包摂的な都市の推進：インフォーマル居住区やインフラ整備・支援が行き届かない地域の居住環境の改善」

16:30～17:15 世界銀行グループ東京開発ラーニングセンターセッション

「土地をレバレッジする：価値の最大化と還元で生み出す新たな都市再生モデル」

17:15～17:30 フォトセッション

19:00～20:30 歓迎レセプション

- 開宴挨拶：福岡市長 高島 宗一郎
- 地元歓迎挨拶：福岡商工会議所副会頭 永江 静加
- 乾杯挨拶：シンガポール上級国務大臣 ロウ・イェン・リン
- 閉宴挨拶：国連事務次長及び国連ハビタット事務局長 アナクラウディア・ロスバッハ

2日目：10月20日(火)

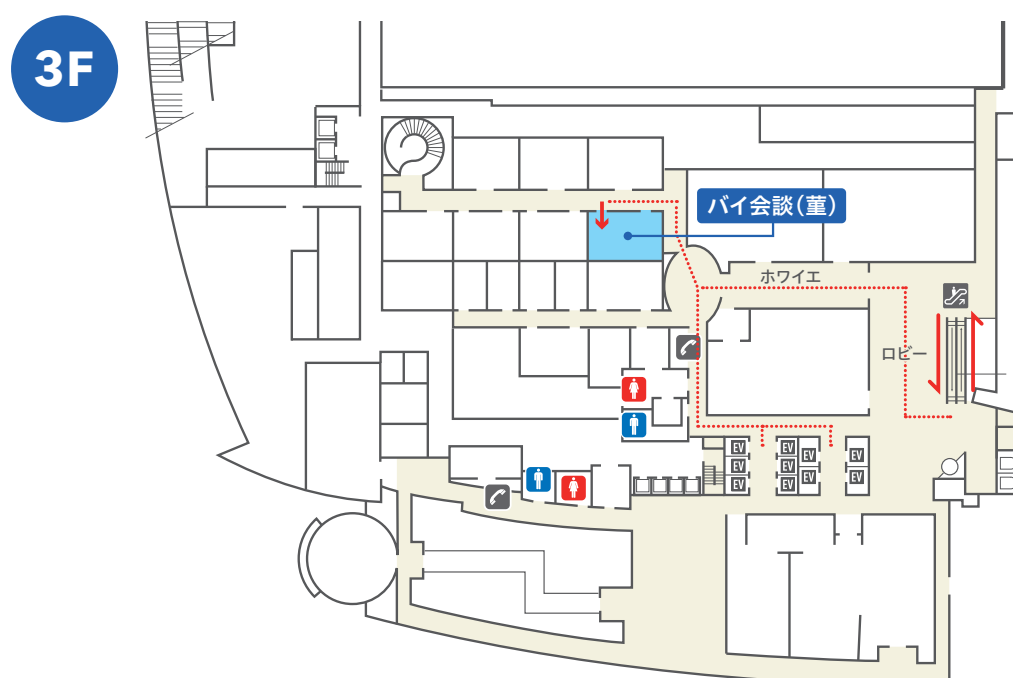
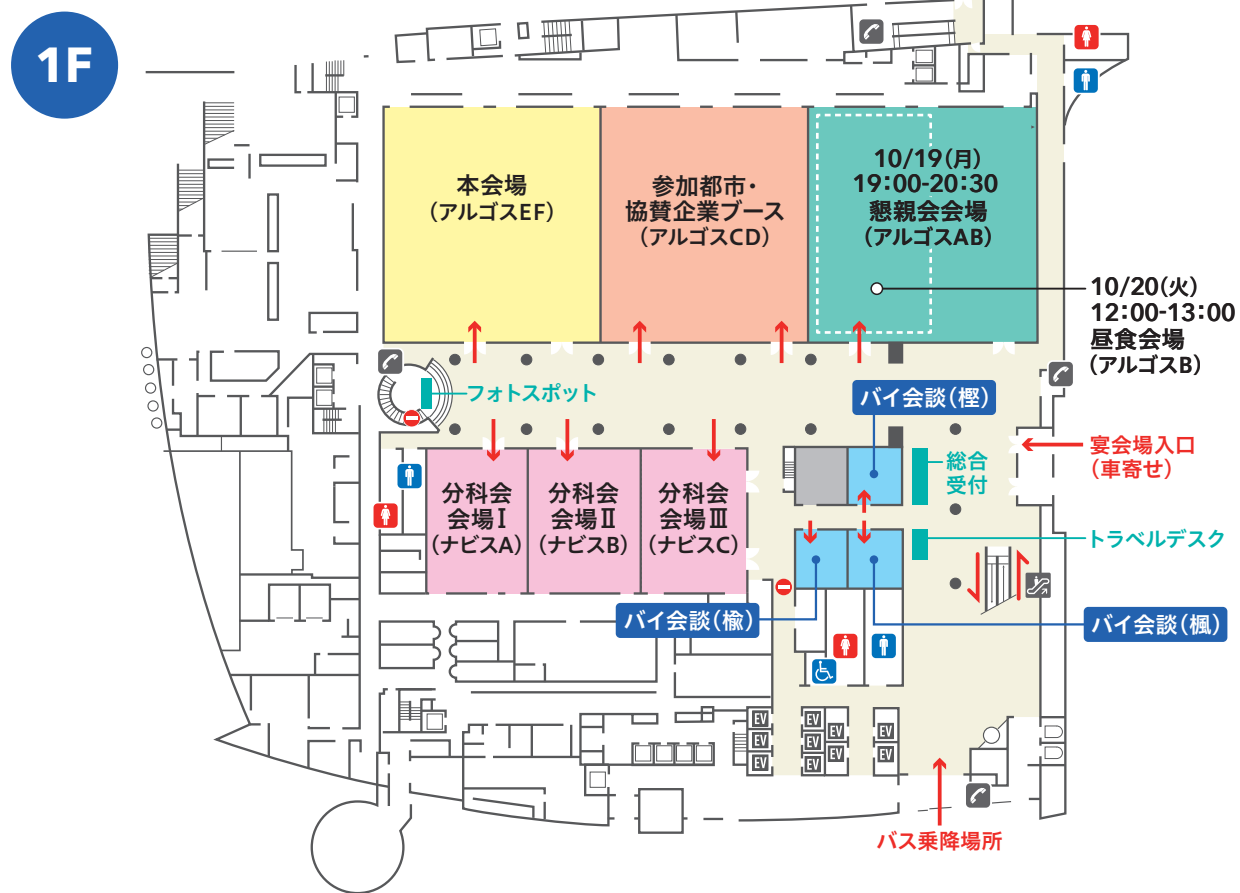
09:30～10:15	分科会導入セッションⅠ 「アジア太平洋地域の都市における持続可能な都市モビリティの加速：地域の取組み、国際的なコミットメント、そして「持続可能な交通の国連の10年」に向けた道筋」
10:15～10:55	分科会導入セッションⅡ 「地域疫学研究からみた日本における認知症の現状と未来」
11:15～12:00	分科会導入セッションⅢ 「リスクからレジリエンスへ：協働で実現する都市課題の解決」
13:00～16:00	分科会Ⅰ 「官民連携による持続可能な都市インフラづくり」 分科会Ⅱ 「超少子高齢社会が進む中で誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」 分科会Ⅲ 「ソフト・ハードの両輪で取組む安心・安全な防災都市づくり」
17:00～17:30	全体会議・閉会式 ■ 分科会報告 ■ 議決事項承認 ■ 共同宣言 ■ 閉会挨拶 ： 福岡市長 高島 宗一郎
19:00～20:30	フェアウェルパーティ ■ 開宴挨拶・乾杯：福岡市長 高島 宗一郎 ■ 閉宴挨拶

3日目：10月21日(水)

視察	■ コース1	8:40～12:50	福岡市都心部再開発エリア、スタートアップ支援、Park-PFI
	■ コース2	8:30～12:20	廃棄物処理、ごみ減量
	■ コース3	9:00～15:40	アーティスト支援、福祉・介護体験、防災体験
	■ コース4	9:00～16:45	上水関連、下水関連

フロアマップ

ヒルトン福岡 シーホーク



展示会場マップ

参加都市・協賛企業ブース(アルゴスCD)

九州大学共創学部が、
分科会の3つのテーマについて
考察した内容をポスター掲示します。



① 九電ドローンサービス株式会社

② 株式会社福岡銀行

③ 株式会社十八親和銀行

④ 株式会社ロッテ

⑤ 九州旅客鉄道株式会社

⑥ アジア航測株式会社

⑦ 九州大学共創学部

⑧ 2026年世界ハビタット・デー記念絵画コンクール

⑨ 国連ハビタット

⑩ 国際連合地域開発センター(UNCRD)

⑪ Fukuoka Flower Show(福岡市)

⑫ 福岡市

⑬ 西のゴールデンルート(福岡市)

⑭ 鹿児島市

⑮ 北九州市

⑯ 熊本市

⑰ 大分市

⑱ 佐賀市

⑲ コーロン市

⑳ タルラック州

㉑ 釜山広域市

㉒ 光陽市

㉓ 浦項市

㉔ カントー市

㉕ 公益財団法人福岡アジア都市研究所

㉖ アジア都市景観賞

㉗ 福岡地域戦略推進協議会

㉘ アジア文化賞(福岡市)

空を見上げて、未来をカタチに。

私たちは、優れたドローン・ロボット技術をもとに、
チャレンジと情熱で地域社会の課題を解決し、
ワクワクするような未来を創っていきます。



九電ドローンサービス

The 15th Asian-Pacific City Summit

**Collaborating & Co-Creating:
Initiatives for Sustainable Cities**

**19-21 October 2026
Fukuoka, Japan**



協賛企業一覧

Gold

KYUDEN
GROUP

ずっと先まで、明るくしたい。

Silver



Bronze



基調講演

10月19日(月) | 15:00~15:10

「アジア太平洋地域の都市における2030アジェンダの推進:共働と共創によるSDGsのローカリゼーション」



国際連合事務次長 /
国連ハビタット事務局長

**アナクラウディア・
ロスバッハ**

略 歴

アナクラウディア・ロスバッハ氏(ブラジル出身)は、国連人間居住計画(国連ハビタット)の事務局長(国連事務次長レベル)であり、住宅、インフォーマルな都市居住地(スラム等)、都市政策の分野で20年以上の経験を有するエコノミストです。2024年6月7日、国連事務総長の指名を受けて国連総会で選出され、国連ハビタット事務局長に任命されました。

現職就任前は、南米・カリブ海地域においてリンカーン土地政策研究所の長を務めたほか、都市同盟(Cities Alliance)の南米・カリブ海地域マネージャーとして、都市住宅分野の実務者ネットワークである「Urban Housing Practitioners Hub」の設立に携わりました。それ以前は、世界銀行とともにブラジルの住宅政策およびスラム改善政策の策定・実施を主導しました。

また、グローバルな都市政策に関する議論に積極的に貢献するとともに、この分野において学術的にも高い評価を得ています。2024年8月12日に国連ハビタット事務局長に着任しました。

基調講演について

本基調講演では、SDGsローカリゼーション(地域化)、共働、そして共創を通じて、都市および地方自治体が「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の推進において果たす重要な役割に焦点を当てます。アジア太平洋地域におけるSDGs達成の進捗が地域によって不均衡である現状を踏まえ、適切な住まい、ベーシック・サービス、持続可能なモビリティ、安全な公共空間の確保、そして地域レベルでの強靱性の向上といった具体的な取り組みに落とし込まれて初めて、国際社会の共通目標は実効性を持ちます。

特に、適切で手頃な価格のレジリエントな住宅を、持続可能な都市開発の基盤として位置付けます。また、アジア太平洋地域に広がるインフォーマル居住地の規模や、住宅の脆弱性と気候リスクとの関連性に注目し、包摂的な都市計画、地域コミュニティの参画、多層的なガバナンス、イノベーション、投資を通じて住宅問題に取り組む必要性を示します。その際、脆弱な立場に置かれた人々や歴史的に取り残されてきたコミュニティのニーズを中心に据えることが重要です。

さらに本講演では、アジア太平洋地域におけるSDGsのローカリゼーション(地域化)や都市間の学び合いの事例を紹介し、地域主導の解決策が共有され、他地域へ応用されることの価値を示します。そして、住宅危機や気候変動への適応はいずれも単独では解決できない課題であるとの認識のもと、政府、都市、コミュニティ、民間セクター、開発パートナーが連携し、解決策を共働・共創していくことの重要性を提起します。

国際機関セッション

国連ハビタットセッション

10月19日(月) | 15:25~16:30

「包摂的な都市の推進:インフォーマル居住区やインフラ整備・支援が行き届かない地域の居住環境の改善」

多様な参加者が一堂に会し、経験や知見を共有するとともに、生活環境の改善と、より包摂的で強靱かつ持続可能な都市開発の推進に向けた、実践的で広く応用可能なアプローチについて議論します。



国土交通省 国土管理企画室長
(居住環境向上担当)

畑 めぐみ



国連ハビタット福岡本部
人間居住専門官

ロイ・キーティ

その他、都市代表者参加予定

世界銀行グループ 東京開発ラーニングセンターセッション

10月19日(月) | 16:30~17:15

「土地をレバレッジする:価値の最大化と還元で生み出す新たな都市再生モデル」

開発利益還元、土地区画整理、官民連携を、都市主導の再生を実現する実践的な手法として検討します。



世界銀行グループ
東京開発ラーニングセンター
副センター長

俵 渉子



世界銀行グループ
上級都市開発専門家

ジョン・カー・カウ



世界銀行グループ
東京開発ラーニングセンター
オペレーションズ・オフィサー

三木 はる香

その他、都市代表者参加予定

分科会導入セッション

分科会の内容をより充実させるため、分科会に入る前に各分科会の関連テーマによるセッションを実施します。

分科会導入セッションⅠ

10月20日(火) | 09:30~10:15

「アジア太平洋地域の都市における持続可能な都市モビリティの加速:地域の取組み、国際的なコミットメント、そして「持続可能な交通の国連の10年」に向けた道筋」

国連、政府、都市の代表が一堂に会し、誰もが利用しやすく、安全で、包摂的、低炭素かつ環境的に持続可能な都市モビリティの実現に向けた具体的な取組みや政策アプローチを共有します。



国際連合地域開発
センター(UNCRD)
所長

村田 重雄



国際連合地域開発センター
環境プログラム
コーディネーター

チョウドゥリー・
ルドラ・チャラン・
モハンティ



国際連合経済社会局
(UN DESA)
持続可能な開発目標部
統合政策分析課 課長

アストラ・ボニーニ
(ビデオメッセージ)



国土交通省総合政策局
国際政策課
国際建設産業戦略官

大宅 千明



大韓民国
城南市長

シン・サンジン
(ビデオメッセージ)



フィリピンダバオ市交通
管理局
局長代理

トリスタン・ドワイト・
パパス・ドミンゴ

分科会導入セッションⅡ

10月20日(火) | 10:15~10:55

「地域疫学研究からみた日本における認知症の現状と未来」

久山町研究の知見を中心に、地域疫学研究からみた日本における認知症の現状と今後について考察します。



九州大学大学院医学研究院
衛生・公衆衛生学分野 教授

二宮 利治

分科会導入セッションⅢ

10月20日(火) | 11:15~12:00

「リスクからレジリエンスへ:協働で実現する都市課題の解決」

ハビタットの国事務所とともに、これまでの経験や教訓、さらには広く応用可能な解決策を共有します。また、パートナーシップ、テクノロジー、地域コミュニティの参画が、地域全体におけるより包摂的かつ強靱な住み続けられるまちづくりをどのように支援できるかについて議論します。



国連ハビタットネパール事務所
ハビタット・プログラム・マネージャー

プラギヤ・プラダン



国連ハビタットマレーシア事務所
シニア・ナショナル・プログラム・オフィサー

ハフィズ・アミロル



国連ハビタットパキスタン事務所
カントリー・プログラム・マネージャー

ワカー・サイード



国連ハビタット福岡本部
人間居住専門官

ロイ・キーティ

分科会

分科会は、アジア太平洋都市サミットの中核を担うプログラムとして、都市が直面するさまざまな課題について、参加都市や多様な関係者が学び合い、語り合う場です。

分科会Ⅰ

10月20日(火) | 13:00~16:00

「官民連携による持続可能な都市インフラづくり」

アジア太平洋の多くの都市では、急速な都市化の進展やインフラの老朽化、気候変動への対応といった課題が複合的に顕在化しています。こうした状況を踏まえ、本分科会では、持続可能な都市基盤をどのように構築・維持していくかについて議論します。

特に、従来の公共主導の枠組みだけでは対応が難しくなっている現状を背景に、官民連携(PPP)や民間資金・技術の活用に着目し、都市における役割分担やガバナンスの在り方について、各都市の取組や経験を共有しながら幅広く議論します。

発表都市

福岡市、長崎市、大分市、佐賀市、ヌサンタラ、イポー市、イスカンダル・プテリ市、光陽市、シンガポール、カントー市

【その他発表者】 株式会社日本政策投資銀行 小川 悠貴、
国際連合アジア太平洋経済社会委員会 シン・サンジーバニ・ディランティ



〈モデレーター〉

国際連合地域開発センター
(UNCRD)
所長

村田 重雄

分科会Ⅱ

10月20日(火) | 13:00~16:00

「超少子高齢社会が進む中で誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」

アジア太平洋の都市では、高齢化や出生率低下・若年層の流出等により、都市の持続可能性や社会システムの維持に関わる課題に直面しており、現在そうでない都市も今後急速に課題が顕在化することが予測されています。こうした状況を踏まえ、本分科会では、超少子高齢社会を見据えた都市サービスについて議論します。

特に、医療・介護・住宅・移動・就労・社会参加などを横断的に結びつけた仕組みや、多様な市民が尊厳と選択肢を持って暮らし続けられる仕組みをどのように構築・更新していくかに着目し、各都市の実践事例を共有しながら幅広く議論します。

発表都市

福岡市、北九州市、宮崎市、マディヤプル・ティミ市、釜山広域市、ハートサイ市

【その他発表者】 川崎重工業株式会社 市川 和宏、
九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野 二宮 利治



〈モデレーター〉

世界銀行グループ
東京開発ラーニングセンター
副センター長

俵 渉子

分科会Ⅲ

10月20日(火) | 13:00~16:00

「ソフト・ハードの両輪で取組む安心・安全な防災都市づくり」

アジア太平洋の多くの都市は、地震等の自然災害が多発する地域に位置しているうえ、気候変動の影響により気象災害が激甚化しています。さらに、都市への人口集中や市街地の拡大により被害リスクが一層高まっています。こうした状況を踏まえ、本分科会では、災害に強く安心して暮らし続けることができる都市の実現に向けた自治体の取組・役割について議論します。

特に、インフラ整備等のハード対策に加え、地域コミュニティや多様な主体との連携、自然を活用した解決策、さらに「Build Back Better (よりよい復興)」の考え方を踏まえた復興・再生の在り方に着目し、各都市の経験や教訓を共有しながら幅広く議論します。

発表都市

福岡市、鹿児島市、熊本市、コーロン市、シャブカダル市、浦項市、ダナン市

【その他発表者】 アジア航測株式会社 神吉 千太郎、国連ハビタット福岡本部 ロイ・キーティ



〈モデレーター〉

一般社団法人海外環境協力
センター(OECC)
理事・業務部門長

加藤 真

参加都市代表者一覧

(2026年10月8日現在)

カンボジア	コーロン市	市長	リーチ・ソヴァン
	シェムリアップ州	副知事	ユン・リンネ
	シハヌークビル市	市長	サル・カカダ
インドネシア	ヌサンタラ	グリーン・デジタル 変革担当副長官	アグン・インドラジット
日本	福岡市(主催)	市長	高島 宗一郎
	鹿児島市	市長	下鶴 隆央
	北九州市	市長	武内 和久
	熊本市	市長	大西 一史
	宮崎市	市長	清山 知憲
	長崎市	市長	鈴木 史朗
	大分市	環境部長	山口 大輔
	佐賀市	市長	坂井 英隆
	佐世保市	市長	宮島 大典
マレーシア	イポー市	財政部長	モハド・シャズラン・ビン・モハド・ イサ・スフィアン
	イスカンダル・プテリ市	企画開発部長	ムハンマド・スフィアン
ネパール	マディヤプル・ティミ市	市長	スレンドラ・シュレスタ
パキスタン	ペシャワール市	前市長	ズバイル・アリ
	シャブカダル市	インターナショナル コーディネーター	ハムザ・アサフ・カーン

参加都市代表者一覧

(2026年10月8日現在)

フィリピン	マニラ市	情報技術部チーフ	フォーチュン・パリレオ
	タルラック州	知事	クリスチャン・テル・A・ヤップ
大韓民国	釜山広域市	副市長	オ・ソックン
	光陽市	市長	パク・ソンヒョン
	浦項市	市長	パク・ヨンソン
シンガポール	シンガポール	上級国務大臣	ロウ・イェン・リン
タイ	ハートヤイ市	副市長	チャリンソン・パトナンタベック
ベトナム	カントー市	カントー市人民委員会 副委員長	トラン・チー・フン
	ダナン市	ダナン市人民委員会 副委員長	トラン・ナム・フン
	ハイフォン市	ハイフォン市党委員会 副書記	ド・マン・ヒエン

参加都市紹介

コーロン市 | カンボジア

カンボジアのプレアシハヌーク州に位置するコーロン市は、海上にある18の島々からなる島嶼自治体です。その本島は、「世界のベストビーチ50」において世界第9位に公式に選ばれています。当市は、何マイルにもわたる美しい白砂のビーチ、透き通った海、そして豊かな海洋生態系で知られています。こうした自然の魅力にとどまらず、コーロン市は持続可能な島嶼開発における地域のモデルへと急速に発展しています。地元行政は、沿岸環境の保全に取り組む一方、経済機会の拡大、インフラの近代化、地域社会の活性化を進めています。環境保全とスマートな都市計画を融合することで、世界水準のエコツーリズム体験を提供するとともに、強靱な未来の構築を目指しています。



コーロン市
市長

リー・ソヴァン

シェムリアップ州 | カンボジア

カンボジア北西部に位置するシェムリアップは、世界的に有名なユネスコ世界遺産、アンコール・ワットへの玄関口として知られています。かつて強大なクメール帝国の中心地であったこの活気ある都市では、豊かな古代の歴史と現代のカンボジア文化が融合しています。アンコール遺跡公園を象徴する石造寺院群に加え、市内にはオールドマーケット(プサー・チャー)やパブストリートを中心とする活気ある繁華街が広がり、賑やかなナイトマーケットや屋台、カフェが軒を連ねています。近郊のトンレサップ湖では、水上集落や独特の淡水生態系に触れることができます。現在もシェムリアップは、カンボジアの文化的中心地であり、主要な観光地として、温かいもてなし、伝統的なアプサラ舞踊、豊かな芸術文化で知られています。



シェムリアップ州
副知事

ユン・リンネ

シハヌークビル市 | カンボジア

シハヌークビル市は、プレアシハヌーク州の主要な経済開発地域の一つに指定されています。国内唯一の大型船が入港できる港があり、国内外を結ぶ商業の玄関口となっています。

また、プレアシハヌーク州で最も人気のある観光地の一つでもあります。自然の美しさが残るビーチに加え、クバル・チャイの滝、オーチュティール・ビーチ、オトレス・ビーチ、島々で楽しめる自然を生かした観光など、エコツーリズムの大きな可能性を有しています。すでに多くの観光施設やサービスが整備され、年々急速に増加する観光客を受け入れています。そのため、観光産業がシハヌークビル市の沿岸環境に及ぼす可能性のある、負荷の増大に対応するため、長期的な計画を策定する必要があります。



シハヌークビル市
市長

サル・カカダ

参加都市紹介

ヌサンタラ | インドネシア

ヌサンタラは、ボルネオ島の東カリマンタンに位置するインドネシアの将来の首都です。環境に配慮したスマートで持続可能な都市として開発が進められているヌサンタラは、インドネシアの長期的な経済変革を支え、質の高い都市環境を創出することを目指して設計されています。近代的なインフラ、デジタル技術、環境の持続可能性、自然を生かした開発を一体的に取り入れています。IKN(Ibu Kota Nusantara、新首都ヌサンタラ)区域の約75%は、保護区域や食料生産区域を含む緑地として計画されています。また、公共交通や徒歩・自転車などのアクティブモビリティ、再生可能エネルギー、効率的な水・廃棄物管理、誰もが利用しやすい公共空間の普及も目指しています。ヌサンタラの開発は2045年に向けて段階的に進められており、世界水準の住みやすく持続可能な都市となることを目指しています。



ヌサンタラ
グリーン・デジタル変革
担当副長官

アグン・
インドラジット

福岡市 | 日本

福岡市は、アジアに近い地理的特性を持つ、人口約167万人の都市です。海や山などの豊かな自然に恵まれる一方、福岡空港、博多駅、博多港が都心部の近くに集積しており、高い交通利便性を有しています。古くからアジアとの交流の窓口として発展してきた福岡市は、現在、国内外から多様な人材や企業が集う、住みやすく活力ある交流拠点都市として成長を続けています。こうした強みを活かしつつ、花や緑などの身近な自然から潤いと安らぎを感じられるまちづくりや、誰もが新たな価値の創造に挑戦できる環境づくりを進めています。これにより、生活の質の向上と都市の成長の好循環を生み出し、人と環境と都市活力が調和した持続可能な都市をめざしています。



福岡市
市長

高島 宗一郎

鹿児島市 | 日本

鹿児島市は、日本の南のゲートウェイとして、古くからアジアをはじめとする海外との交流を通じて発展してきました。鹿児島県の県都であり、行政、商業、教育、文化、医療などの都市機能が集積する南九州の中核都市です。

また、活火山・桜島や錦江湾に代表される豊かな自然に恵まれ、都市と自然が調和した魅力ある都市景観を有しています。豊かな食文化や温泉にも恵まれており、誰もが生き生きと安心して暮らし続けられるまちづくりを進めています。



鹿児島市
市長

下鶴 隆央

参加都市紹介

北九州市 | 日本

北九州市は、活気ある都市の利便性と美しい自然が完璧に融合した、人口90万人のダイナミックな大都市です。美しい海と山に囲まれた本市は、歴史ある小倉城をはじめとする豊かな文化財に恵まれています。また、世界に誇るものづくりのまちとして、TOTOなど世界市場で活躍するグローバル企業を多く擁する一方、極上の「すしの都」としても知られ、その素晴らしい食文化も魅力となっています。加えて、北九州市は日本一の子育て環境の街としても高く評価されており、誰もが非常に暮らしやすい、充実した生活環境を提供しています。夜には、市内各所で日本屈指の壮大な夜景が広がり、昼とは違った独特で魅力的な姿を見せてくれます。



北九州市
市長

武内 和久

熊本市 | 日本

熊本市は、九州の中央に位置し、人口は約74万人の政令指定都市です。熊本城、水前寺成趣園や動植物園など観光名所が多く、グルメも有名で豊かな食文化があります。市内は緑豊かな公園や川沿いの遊歩道がある等、自然に囲まれた暮らしも楽しめます。さらに、交通アクセスも便利で、新幹線や在来線、また熊本空港からも多くの路線が就航しています。地元の人たちの温かいおもてなしも魅力的なまちです。

平成28年熊本地震の発災から、熊本市は国内外からの温かいご支援とご協力、そして市民の皆様の懸命な努力により一步一步着実に復旧・復興しています。市民が住み続けたい、誰もが住んでみたくなる、そして訪れたくなる、「上質な生活都市」を目指したまちづくりをこれからも進めていきます。



熊本市
市長

大西 一史

宮崎市 | 日本

太平洋に面し、年間を通じて温暖な気候と全国有数の日照時間に恵まれた宮崎市は、「都市の利便性」と「豊かな自然」が調和した都市です。この恵まれた環境を生かし、プロスポーツのキャンプ地や世界的なサーフスポットとしても広く知られています。

本市の強みは、生活やビジネスに必要な都市機能が中心部に集積したコンパクトシティであることです。宮崎空港から市中心部までは車で約15分とアクセスに優れ、青島をはじめとする美しい海岸や豊かな自然にも近接しています。

通勤時間が短く、日常的にサーフィンやゴルフなどを楽しめるなど、仕事と暮らしを両立しやすい高い生活の質(QOL)を実現できることも、本市の大きな魅力です。

宮崎市は、世界に開かれた都市として、海外からの移住や企業の進出、観光で訪れる皆様に歓迎し、多様な人々が活躍し交流できる環境づくりを進め、アジアをはじめ世界との新たな連携を広げてまいります。



宮崎市
市長

清山 知憲

参加都市紹介

長崎市 | 日本

長崎市は1945年原爆の惨禍を経験したものの、まちの中心部が被害を免れ、なくなるはずだったものが存在しながら原爆からの復興を遂げた経験から、今年初めニューヨーク・タイムズ紙「2026年に訪れるべき52か所」に選定された平和と観光のまちです。現在は、長崎駅周辺をはじめとする官民が連携した大規模な再開発プロジェクトが進行しており、100年に一度と言われる変革のときを迎えています。これからも核兵器廃絶を世界に訴え続けるまち、国際交流を通して育まれた歴史・文化を大切にすまちとして歩みを進めていきます。



長崎市
市長

鈴木 史朗

大分市 | 日本

大分市は、緑豊かな山々と青い海や川、そして温暖な気候に恵まれた地勢を有し、中世には戦国大名・大友宗麟により海外との交易が積極的に進められ国際貿易都市となるなど、古くから東九州の要衝として重要な役割を担ってきました。また、産業・教育・福祉等の都市機能が充実した多彩な魅力と活力あふれる県都として大きく成長してきました。

市民一人ひとりと真摯に向き合い、ひとを中心に考える－ひとが真ん中。－という基本姿勢のもと、「ひとを守る」「ひとを育む」「ひとを支える」「ひとを豊かに」「ひとを元気に」の5つをまちづくりの柱として、すべての市民が身体的、精神的、そして社会的にも満たされた「ウェルビーイング」な社会の実現に向け、市政運営に取り組んでいます。



大分市
環境部長

山口 大輔

佐賀市 | 日本

佐賀市は、脊振山系から有明海まで広がる豊かな自然と、世界文化遺産「三重津海軍所跡」や佐賀城跡などの歴史・文化資源を有する都市です。アジア最大級の熱気球大会「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」をはじめ、多彩な地域資源を生かした魅力あるまちづくりを進めています。また、スマートシティ・DXの推進により、市民サービスの向上と持続可能な地域づくりに取り組み、市の将来像である「佐賀らしさでみんなが上を向くまち」の実現を目指しています。



佐賀市
市長

坂井 英隆

参加都市紹介

佐世保市 | 日本

佐世保市は長崎県北部に位置し、西海国立公園「九十九島」の美しい自然景観や世界遺産「黒島の集落」が示す歴史、さらに海に開かれた港町として培われた国際色豊かな文化が共存する個性あふれるまちです。

近代以降、港とともに発展した本市は、現在も基幹産業である造船業が盛んです。

さらに、日本最大級のテーマパーク「ハウステンボス」や400年の伝統を誇る「三川内焼」など豊富な観光資源を活かし、多くの観光客を迎えています。

本市は、国内外との交流を深め、多文化共生と持続可能なまちづくりを積極的に進めています。



佐世保市
市長

宮島 大典

イポー市 | マレーシア

イポー市はマレーシア・ペラ州の州都であり、同国の主要都市の一つです。豊かなスズ鉱業の歴史、美しい石灰岩の丘陵、活気あるストリートアート、多彩な食文化で知られ、観光、文化、ビジネスの拠点へと発展を遂げています。

クアラルンプールとペナンの間という地理的に恵まれた場所に位置し、マレー半島北部への玄関口となっています。保存状態の良い植民地時代の建築物と現代的な都市機能が共存し、歴史的な魅力と近代的な発展が独自に融合しています。

イポー市議会の行政区域内には80万人以上が居住し、面積は約643平方キロメートルに及びます。イポー市は、持続可能な都市開発、歴史的遺産の保全、地域社会の福祉、観光分野の革新に取り組んでいます。



イポー市
財政部長

モハド・シャズラン・
ビン・モハド・イサ・
スフィアン

イスカンダル・プテリ市 | マレーシア

イスカンダル・プテリ市は、シンガポールとインドネシアに近い、マレーシア南部の玄関口という地理的に重要な場所に位置しています。マレーシア・シンガポール・セカンドリンクを通じてシンガポールと直接結ばれ、プテリ・ハーバー国際フェリーターミナルを通じてインドネシアとも結ばれています。また、世界有数のコンテナ港であるタンジュン・ペレパス港があります。市域の約40%が将来の成長に利用可能であり、持続可能な産業、デジタルインフラ、スマートな都市開発に大きな可能性をもたらしています。さらに、ジョホール・シンガポール特別経済区とフォレストシティ特別金融区によって、投資先としての可能性が一層高まっています。グリーン・カタリストとして、イスカンダル・プテリ市議会(MBIP: Majlis Bandaraya Iskandar Puteri)は、ESGおよび気候変動に関する取り組みに沿った責任ある投資を支援するため、明確な方針を示すとともに、関係機関との調整やモニタリングを行っています。



イスカンダル・プテリ市
企画開発部長

ムハンマド・
スフィアン

参加都市紹介

マディヤプル・ティミ市 | ネパール

マディヤプル・ティミ市は、ネパールのカトマンズ盆地にある古くからのネワール族の自治体で、9つの区からなり、面積は11.47平方キロメートルです。その名称は、バクタプルを守る「有能な」という意味の「チェミ」に由来し、後に「中央の都市」を意味するようになりました。守護神を祀るバルクマリ寺院、マハラクシュミ寺院、ナガデシュ・ダルバール、ボデ・ダルバール、ティミ・ダルバールなどの歴史的遺産があります。陶芸で知られるこの町では、つぎのような活気あふれる祭りが行われています:ピスカ・ジャトラ(新年祭)、ガイ・ジャトラ、悪魔の伝説に由来する独特の舌刺し祭り。また、ラヤク・バイラ・ナーチをはじめとする数多くの伝統舞踊も受け継がれています。1996年に設立された同自治体の人口は8万3,000人を超えています。2022年時点では、スレンドラ・シュレスタ市長が市政を率いています。



マディヤプル・ティミ市
市長

スレンドラ・
シュレスタ

ペシャワール市 | パキスタン

「花の都」と呼ばれるペシャワール市は、パキスタンのカイバル・パクトウンクワ州の州都で、少なくとも紀元前539年までさかのぼる記録が残る、現在まで人々が暮らし続けている南アジア最古の都市です。何世紀にもわたり、サンスクリット語で「花の都」を意味する「プシャブラ」をはじめ、さまざまな名称で呼ばれてきました。

何世紀にもわたり、ペシャワール市は、カイバル峠を通して中央アジアとインド亜大陸を行き来する旅人にとって最初の立ち寄り地でした。また、ペルシャ、ギリシャ、仏教勢力、クシャーナ、フン、ムガル、シク、イギリスなど、さまざまな勢力による侵攻を経験してきました。

こうした文明の遺産は、人口400万人を超える現在のペシャワール市にも色濃く残っています。市の中心部には16世紀に建てられたムガル様式のモハバット・ハーン・モスクがあり、街を見下ろすように、ペシャワール市そのものと同じほど古い基礎を持つバラ・ヒッサール要塞がそびえています。近くにはペシャワール博物館があり、紀元前6世紀から紀元11世紀までペシャワール渓谷を支配した仏教文明の繁栄を物語る、数多くのガンダーラ遺物が収蔵されています。



ペシャワール市
前市長

ズバイル・アリ

シャブカダル市 | パキスタン

シャブカダル市は、パキスタンのカイバル・パクトウンクワ州チャルサッダ地区にある、活気ある歴史的な自治体です。豊かな文化遺産に根ざし、人々の強靭さと温かいもてなしの精神に育まれ、古くから農業、商業、地域社会の重要な中心地として発展してきました。ペシャワール近郊の地理的に重要な場所に位置し、持続可能な都市開発、公共サービスの向上、経済機会の拡大に向けて着実に歩みを進めています。市当局は、この都市ならではの個性と伝統を守りながら、包摂的な行政運営、環境への配慮、市民本位の開発に取り組んでいます。連携と国際的なパートナーシップを通じて、現在および将来の世代に質の高い暮らしを提供できる、豊かで強靭かつ持続可能な自治体となることを目指しています。



シャブカダル市
インターナショナル
コーディネーター

ハムザ・アサフ・
カーン

参加都市紹介

マニラ市 | フィリピン

フィリピンの首都マニラ市は、マニラ湾に面したわずか42.88平方キロメートルの市域に、何世紀にもわたる歴史が凝縮された都市です。その文化には、タガログのルーツ、1571年に始まったスペインによる植民地支配、アメリカ統治、日本による占領など、450年以上にわたるさまざまな歴史的影響が重なり合っています。その名残は現在も、イントラムロスの教会、エルミタ地区の建築物、そしてイスラム教徒、プロテスタント、仏教徒などの比較的小規模なコミュニティと共存しながら、今なお主流を占めるカトリック文化などに見ることができます。

市政は市長・市議会制で運営されており、現在はフランシスコ・ドマゴソ市長（通称イスコ・モレノ）、チャー・アティエンサ副市長、38名からなる市議会が市政を担っています。また、国の首都として、主要な政府機関も置かれています。

約190万人が暮らすマニラ市は、世界で最も人口密度の高い都市とされており、昼間には通勤者の流入によってマニラ首都圏の人口が1,500万人近くにまで膨れ上がります。トンドやサンパロックなどの地区には、困難を乗り越えるたくましさで知られる労働者層のコミュニティが形成されています。

医療、教育、住宅、治安などの行政サービスは市庁舎を中心に調整され、常に過去と現在の調和を図りながら歩む首都を支えています。



マニラ市
情報技術部チーフ

フォーチュン・
パレオ

タルラック州 | フィリピン

タルラック州: 共創に向けて

中部ルソン地方の中心に位置するタルラック州は、アジア太平洋地域のパートナーに、優れた交通アクセス、多様な投資機会、そして持続可能な工業化への取り組みという強みを提供しています。主要な高速道路によって、マニラ首都圏、クラーク国際空港、スービック湾フリーポート、北部ルソンと結ばれています。ニュー・クラーク・シティ、TARI エステート、ビクトリア工業団地、クレセンド、州内の2つのITパークでは、製造業、商業、デジタルサービスの各分野でさまざまな機会が生まれています。農業を基盤としてきた歴史、多様な文化、熟練した人材が、包摂的な成長を支える基盤となっています。タルラック州は、工業化と農業開発、都市のイノベーションを結びつけることで、雇用や生計の機会を広げ、地域社会のさらなる発展を目指しています。同州は、持続可能で強靱な発展に向けた持続的なパートナーシップを共創するため、耳を傾け、学び、共有する姿勢で福岡に臨みます。



タルラック州
知事

クリスチャン・テル・
A・ヤップ

釜山広域市 | 大韓民国

釜山広域市は、大韓民国を代表する海洋拠点であり、世界的な港湾都市です。海と調和した都市景観が生み出す独特の魅力でも知られています。世界有数の港湾を基盤に、海洋分野と物流の主要拠点として発展するとともに、産業面での強みに加え、美しい海岸線や豊かな観光・文化資源にも恵まれています。また、釜山国際映画祭をはじめとするさまざまな国際イベントの開催を通じて、国際社会との交流にも積極的に取り組んでいます。現在、釜山広域市はさらなる飛躍に向けて歩みを進めています。海洋産業の高度化と新たな産業分野の育成を進めることで、世界とつながり、大韓民国の将来の成長を牽引する「海洋首都」として発展を続けています。



釜山広域市
副市長

オ・ソクン

参加都市紹介

光陽市 | 大韓民国

光陽市は、大韓民国南部の主要な経済都市であり、国際的な港湾物流と産業の重要な拠点です。

世界最大級かつ最先端の製鉄施設の一つであるPOSCO光陽製鉄所があり、世界の二次電池産業の主要拠点としても成長を続けています。面積は466平方キロメートル、人口は約15万人で、産業、文化・芸術、観光、社会福祉が融合する活気ある都市へと発展しています。



光陽市
市長

パク・ソンヒョン

浦項市 | 大韓民国

浦項市は、大韓民国の工業化において重要な役割を果たした鉄鋼産業という強固な基盤を生かしながら、最先端産業と革新的な技術を取り入れ、新たな未来を切り拓いています。従来の炭素集約型鉄鋼産業から脱却し、水素還元製鉄や低炭素特殊鋼を中心とするグリーンスチールの拠点へと転換するとともに、二次電池、バイオテクノロジー、ロボティクスなどの未来産業も積極的に育成しています。こうした変革を通じて、産業の革新、活気ある地域経済、若い世代の希望がともに育つ都市づくりを進めています。市民とともに「偉大な浦項、より良い明日」を築きながら、大韓民国を越えて、未来を牽引する世界水準のカーボンニュートラル産業都市、そしてグローバルな革新拠点へと成長するため、大きな一歩を踏み出しています。



浦項市
市長

パク・ヨンソン

シンガポール | シンガポール

シンガポールは、東南アジアの中心に位置する活気ある国際都市国家で、多文化社会、世界水準のインフラ、優れた国際ネットワークで知られています。多様な文化的背景を持つ600万人以上の人々が暮らし、さまざまなコミュニティが、それぞれの伝統、言語、食文化、体験を通じて豊かな文化を形作る、現代性と歴史的遺産が融合した都市です。シンガポールは、長期的な計画、強固な官民連携、強靱なインフラへの投資を通じて、持続可能な都市開発を推進しています。主な取り組みとして、総合的な水資源管理、環境に配慮した建築、そして都市開発と環境の持続可能性、住みやすさの調和を目指す「City in Nature(自然の中の都市)」構想などがあります。



シンガポール
上級国務大臣

ロウ・イェン・リン

参加都市紹介

ハートヤイ市 | タイ

タイ南部を代表する都市であるハートヤイ市は、多文化の歴史、活気ある経済、強靱な地域社会で知られています。当市は「Co-Creating Liveable Cities(住みやすい都市の共創)」の取り組みを通じて、効率的な公共サービス、医療、テクノロジーを取り入れ、社会福祉の向上を図りながら、現代的な都市成長に主体的に取り組んでいます。活発な貿易と物流に加え、環境への配慮と社会的包摂も重視しています。また、防災に関する経験を共有するとともに、海外の優れた取り組みから学ぶことにも力を入れています。アジア太平洋地域の各都市との強固なパートナーシップを築くことで、すべての住民の長期的な繁栄、尊厳、質の高い暮らしにつながる革新的な解決策の創出を目指しています。



ハートヤイ市
副市長

チャリンソン・
パトナントベック

カントー市 | ベトナム

カントー市は、メコンデルタの中心という地理的に重要な場所に位置し、同地域をベトナム国内の他地域や国際社会と結ぶ玄関口としての役割を担っています。2025年の行政再編に伴い、市の面積は約6,360平方キロメートル、人口は420万人を超えています。広大な河川・運河網、肥沃な土地、多様な天然資源、豊かな文化遺産に恵まれたカントー市は、農業、貿易、観光、物流、農産物加工に適した良好な条件を備えています。同市は、教育、医療、科学技術分野の発展を進めるとともに、国際協力の強化にも取り組んでいます。こうした強みを生かし、カントー市は、メコンデルタの環境に配慮した、文明的で近代的かつ気候変動に強い、持続可能な成長拠点となることを目指して歩みを進めています。



カントー市
カントー市人民委員会
副委員長

トラン・チー・フン

ダナン市 | ベトナム

2025年7月1日のダナン市とクアンナム省の合併により、新たなダナン市は面積約12,000平方キロメートル、人口300万人以上を擁する都市となりました。ベトナム中部の地理的に重要な場所に位置し、2つの空港と4つの主要港を有するなど、優れた交通ネットワークを備えています。成長の原動力となっているのは、ダナン・ハイテクパーク、チュライ開放経済区、ダナン自由貿易区、ベトナム国際金融センターなどです。また、ホイアン旧市街、ミーソン聖域、五行山の摩崖碑文などの文化遺産もあります。金融、物流、ハイテク、半導体、AI、イノベーション、質の高い観光を重点分野とし、スマートで持続可能かつ住みやすいアジアの都市となることを目指しています。



ダナン市
ダナン市人民委員会
副委員長

トラン・ナム・フン

参加都市紹介

ハイフォン市 | ベトナム

ハイフォン市は、活気ある港湾都市であり、ベトナム北部を代表する産業・経済の中心地の一つです。海への玄関口という地理的に重要な場所に位置し、近代的な港湾と、道路、鉄道、内陸水路、海運、航空からなる総合的な交通ネットワークを通じて、ベトナム北部と域内および世界の市場を結んでいます。2025年のハイズオン省との行政区域の合併により、開発可能な地域が広がり、産業基盤が強化され、新たな成長の原動力も生まれています。近代的な港湾・物流インフラへの投資を進めるとともに、環境に配慮したスマートなハイテク産業を推進しています。2050年に向けて、世界とつながる近代的な国際港湾都市、そして地域の重要な物流拠点となることを目指しています。



ハイフォン市
ハイフォン市党委員会
副書記

ド・マン・ヒエン

第15回 アジア太平洋都市サミット プログラムブック

2026年10月発行

編集・発行

アジア太平洋都市サミット事務局

〒810-8620 福岡市中央区天神一丁目8番1号
福岡市総務企画局国際部内

TEL:092-711-4028 FAX:092-733-5597

E-mail: apcs@city.fukuoka.lg.jp

Website: <http://apcs.city.fukuoka.lg.jp>
